

# 嘉陵記行

五篇元

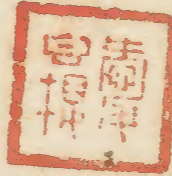
目録  
 成子成列寺心為道永寺  
 柏木名以寺大宮八幡宮  
 逢井八幡宮  
 八幡宮  
 高田天満宮  
 九品佛  
 二子行祥寺  
 小澤牡丹新特代末幡道志  
 依所能了義り紀作若松寺形  
 和田戸山と記  
 内庭の記

和書門	二九二〇一
架	一〇四
冊	二〇
函	七
號	二〇
類	二〇

内閣文庫	
番號	和 29201
冊數	20 (17)
函號	177 1056







嘉陵記行五之卷目錄

六九三一番

明治十五年購求

成子成和寺

小島道永寺

柏木吉盛寺

大宮八幡宮

蓮井信橋

長福寺池  
妙正寺

千駄谷八幡宮

高田天満宮

三行律寺

九品佛

小澤杜丹丹新野村

代々木八幡宮

信長寺

和国寺山之記

紀伊郡 四原の記





成願寺 熊野十二社

兜塚方位踏徑

畧畵

文政元年八月廿六日

中川正辰同遊











兎塚畠

東三向

檜木一丈四五尺上ニテ枝ヲ生ス

大ヤ一围許木根三方ヨリ前ニテ石ヲ抱ク

牧野大隅守屋敷内ニアリ

未歴シレス

年々三月毎ニ牧野氏ヨリ前ノ石ノ上ニ  
備物ヲ供スト云

石

此石ノ面平也其  
青色ニテ所  
白キ石莢ノ如  
ナルモノアリ  
苔深ニ紀  
石ナルヘシ

此石伊豆、  
青石、如  
大石切割  
タル野類、  
マナリ



北

中野村  
本柳村  
多寶山成願寺  
境内畠

性達長者墳

金長

東

印塔

本堂

庫裏



成願寺の山に草ア葉熊笹如ク私其葉叢生ス  
 芒を薄ノヤハて二三葉ヲ生ス  
 子林云必ニ芒ヲ生ス故ニ人ニツカレリ  
 前田子林云以茶道流山遊ノナクモ所ニモ生ス  
 和名二人静漢、茂淡ニ云ル茂淡葉物ニ使  
 フナシ  
 但コレ別種ノ茶ニ



辛卯秋この茶を尋ルル今々  
 哉

成願寺禪刹之門の南多寶山と有お小井、取上水流る小橋を  
 て渡り門より本堂迄三十六間入るたう小百観音堂あり  
 古小鐘あり方丈庫裏あり鐘橋は傍小川成板あり庫裏  
 の庭をさへ後山小池あり山の字を三丈さる上小金毘羅  
 乃社ありさへり此小池を傍を周り小川の橋の流あり  
 傍より二三株ありその小池の端の字を一丈六寸埋れり  
 是は傳へ云性蓮長者といふ此傍に又此山をさ人の往  
 一臨しといふ山塔板けやきの教生とあり四尺を許り  
 金毘羅社の辺りありはる小南乃方向陵縣の辺りあり



のこ申也寶泉寺の堂の塔はもと此寺の塔なりと古(爰)の位持  
より寶泉寺へもひらけしと云々も塔の内は性蓮長者妻  
姉の像と云々年代も唐の代に中川に居りし

向陵縣 成類寺より南の方松林ありしと云々其の塔ありし  
成類寺の陵は向ししと云々園ありし此寺の位も杉小の塔なり  
つづりや向陵縣の南の情谷に不動の塔あり

あつては成類寺の位持也  
唐の代に杉小の塔ありしと云々

然れ十二社の成類寺の位持也此山は鳥三の首なる人なりと云々  
忽ちある何れも冷すしものや後うたふ念をこのわふ余を所

鳥は二羽の陽の奇なりしや爰の境内二三年はくくやありし木や  
刈りけしむらりしと云々其の木は杉なりしと云々此の岸畑乃  
時ふ杉ありしと云々秋は味神なり

鹿塚は然れ社の大門をむくしや南へ行くと其の東側林乃中小に  
処牧野天隅も下屋敷の内なりしと云々此の山はもと世に  
ありしと云々二三間の山ありしと云々此の山はもと世に  
ありしと云々此の山はもと世にありしと云々又云  
二つは標の大と一圓なり一丈四五尺ありしと云々上は枝りり  
松林の中は石の穴ありしと云々二尺三寸許り堅のりしと云々一尺二三寸斗



高き一丈半紫青色少く高く白石英の如く散る物なり其の方より  
石も大き稍大に厚さの青石も少く一丈半大石成切り中々あり  
乃之に二つとも書て置

十貫板 此處より地と境なく永樂後十貫又と府在名つて云  
十三社縁起  
引合をみるべし

北越斎談 崑崙橋書世 五漆子益朱子益黄金子益朝日暎々自暉有り

梨樹下如此ノ古碑他邦より伝ふ國に三々不ありを一古邑の  
東山下塗嶋村觀音寺ニ新設田より南牧山葉際を三上園谷  
柱村之を里俗頻る此の古碑と慕く昔古者其書金一と云

中不懼免は碑と云々今も不立と云々石亦亦多し  
りり是と云々人々も云々此の古碑と慕く昔古者其書金一と云  
の人々此の碑化せり云々一人の書と云々此の古碑と慕く昔古者其書金一と云  
の傳の如く不立と云々只三々不立の中より一所に碑と建ふと云々  
云々此の古碑の如く云々此の古碑と慕く昔古者其書金一と云  
云々此の古碑の如く云々此の古碑と慕く昔古者其書金一と云  
云々此の古碑の如く云々此の古碑と慕く昔古者其書金一と云  
朝日東に夕日に西に梨樹の如く此の古碑と慕く昔古者其書金一と云  
小中央とも一物なり云々此の古碑と慕く昔古者其書金一と云















その内皆うゆ一丁の有是古依の法よりけりありといふん此亦  
山中に柱く古器物と出土すしる方一と云長者壯年の時一廿五  
名永十三丙戌ノ年一乃一在寺廿年  
主子不生のころ一三十九ヤル  
是をを籠る方小味し奴僕して彼金を有りめ人法少なる所性  
小憚りくするを救回りぬ運送乃奴僕人試る人小憚り  
るををりぬ毎にこれを橋小教す存小此橋を安石見の  
橋と云性やんれともほくをえをる謂之と云長者法悪く乃  
かく救ひくしり生処の一方金身小舞と生く蛇を成居ると  
池にぬ即十三社山下の池  
父母悲歎に堪ぬ相州冥本最宗寺

法名三親と云  
寺号と云し  
今成親を  
今成親を  
今成親を

乃春屋禪師の或時之高徳なるをりてこれと招請す禪師  
信してこころあり即真宗正觀禪女の血脈を池中に授一偈成  
授一は蛇体忽小得脱して上天長者歎し小不堪奮宗と捨く  
福海正蓮と改名一岳宅と云て精舎と一女の法名三親と云て寺  
号と云又宅中下方丑間の堂と造るに金銀と漆ノ善具とを以て是を  
正蓮受戒の布旅として最宗寺小寄付ぬ  
然るに四十年ある禪中此堂  
天の爲小焼亡今礎のみあり  
一永享十二年庚申終つてこころあり  
は永享十二年元文  
二年即ち三百九十八年一正蓮の墓境内  
に在り  
おれ最宗寺の正蓮  
墓位牌の年あり  
今成親寺境内小塔を築くと云知即ち一跡也



塔に地交に移る塔中ふ安きとゆ交に聖徳太子彫刻の新迦佛と  
今成教寺容殿の本尊の如くは後文明二年丙申小御春風より世  
川菴和尚高寺小住より法嗣今小連綿す

十二處の社地を角若く名付するに蓮より神人かより後婆塞の  
後於神事小御春より依く神乃家の説と用ひ自稱して角若  
より後蓮小地若くはなる也

神事也  
神官律門の傳と發長尼と發長優婆塞と角若く稱せ居るに藤  
塔と河高の如くは

是ハ元文二年よりある十二處の社縁起より果抄也  
文政七年申閏八月朔日なり

小日向道永寺

梅於つゝ

柏木村善照寺

文政三年辰添生十日

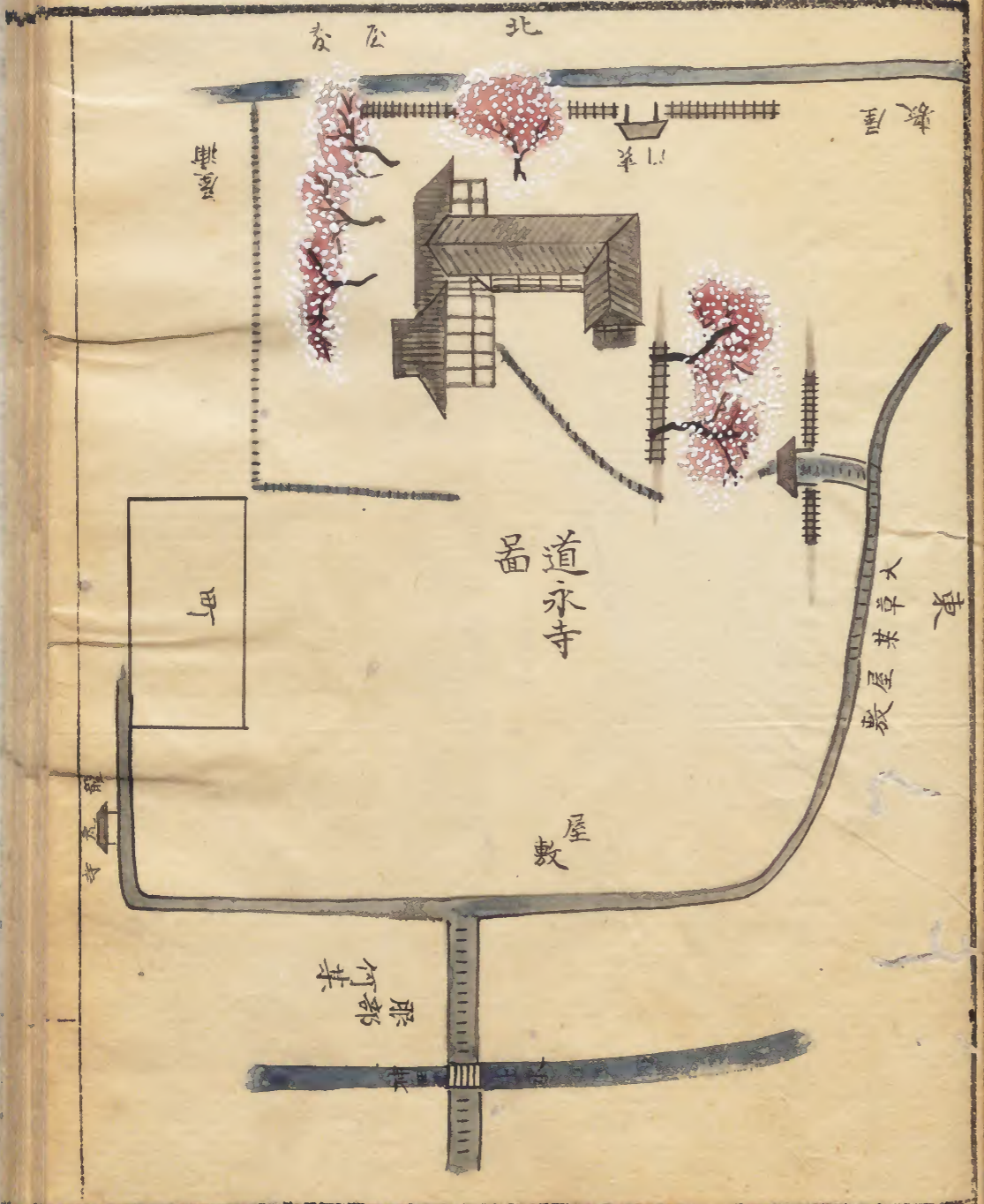
小日向より聖坂の上より道永寺より寺あり其の座ふよま  
ありききて中よりふいしをらして行て見る實ある人れり小  
ころころるを堂のふ座意の極ふとて二よりなり板より  
よして度の中より入書院乃度あり一社乃を柏木村  
よりなるを善公重乃座をぬるやめをさるるよ吹風乃  
きに香れしちありしちありぬりしりぬるを抄







七面の社...  
 砂子...  
 山...  
 時...  
 七面...  
 花樹...  
 社地...  
 向表...



何れ... 天満天神乃社あり  
 和向...  
 本社...  
 人の...  
 斗...  
 田...  
 こ...  
 の...  
 へ...  
 へ...  
 へ...



福の本多しゆしゆく人家二三たつてもいなり頼千秋の留杖有花  
處投宿有花家春風三十日日と只求花と傳りゆりゆりゆりゆり  
りゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
あぢりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
又七八丁ゆりゆりゆり

圓照寺門小扁りり匡光山と云佐々木寺門乃不曲角小りみの  
大ぬか二かたを接してきりり門を入りたりり受深堂と云小  
斜りゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
小葉ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

て咲く堂の芳小いら大ぬか二かたり又本木此幹うち伐りる  
三もこころり若木三四と云皆の定めて流るありゆりゆりゆり  
寛政二年を倒しゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
りり圓とハ三圓と有ゆり寺のありゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

萱下活潑と云ものたつるはア砂子小ちんゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
りゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり



下は若枝と徒木と枝葉繁く昔乃名香と云ふ所の終る木多れは  
 今も古の樹の呼名くふも此去享保十七年梓行すといふに  
 此木松とていひの文香をいひて此の樹や一百年かをいひて  
 とは遠水木の樹といふれもむも樹が大きき日一極の香も入り  
 今源は梅木といふにすといふも今もさういふも梅木もいふ  
 今のありや〜〜〜

柏木村圓照寺

往歳寺中有櫻武田古法門者愛之而  
 其樹枯左門運葉之就其趾植苗以  
 永其愛今之櫻即是因終名干花  
 相傳右門者昔年寓干村中久矣不  
 知何處人之或云享保中之人

圓照寺中のみみ木といふもさういふ  
 目下は此木の雑木谷四家町の之富土に  
 茶屋より田圃と隔てるといふ此木はゆき

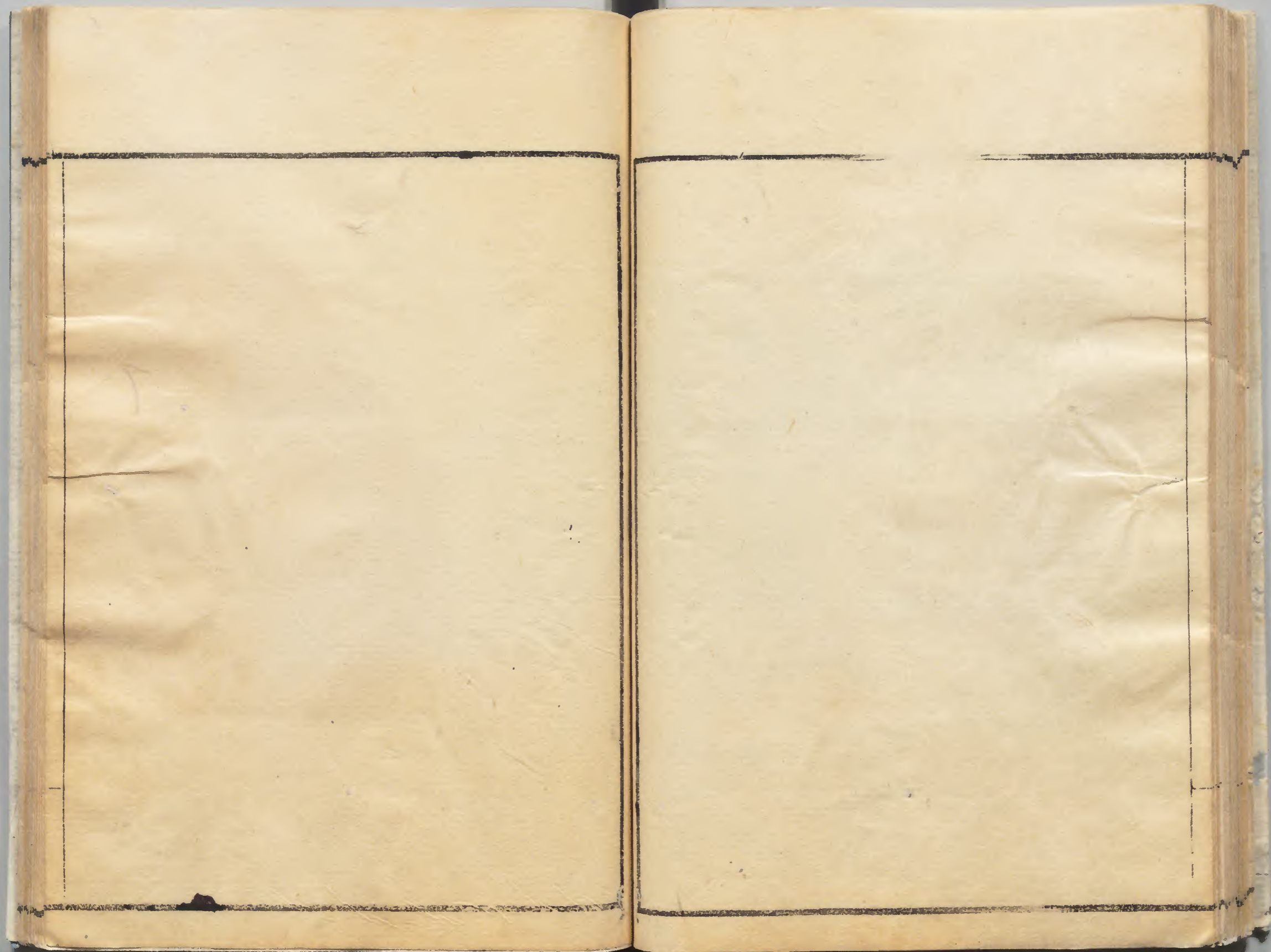
古人遺愛古時蒼林下每春  
 含彩霞借問古人何處去花  
 開花落幾年華



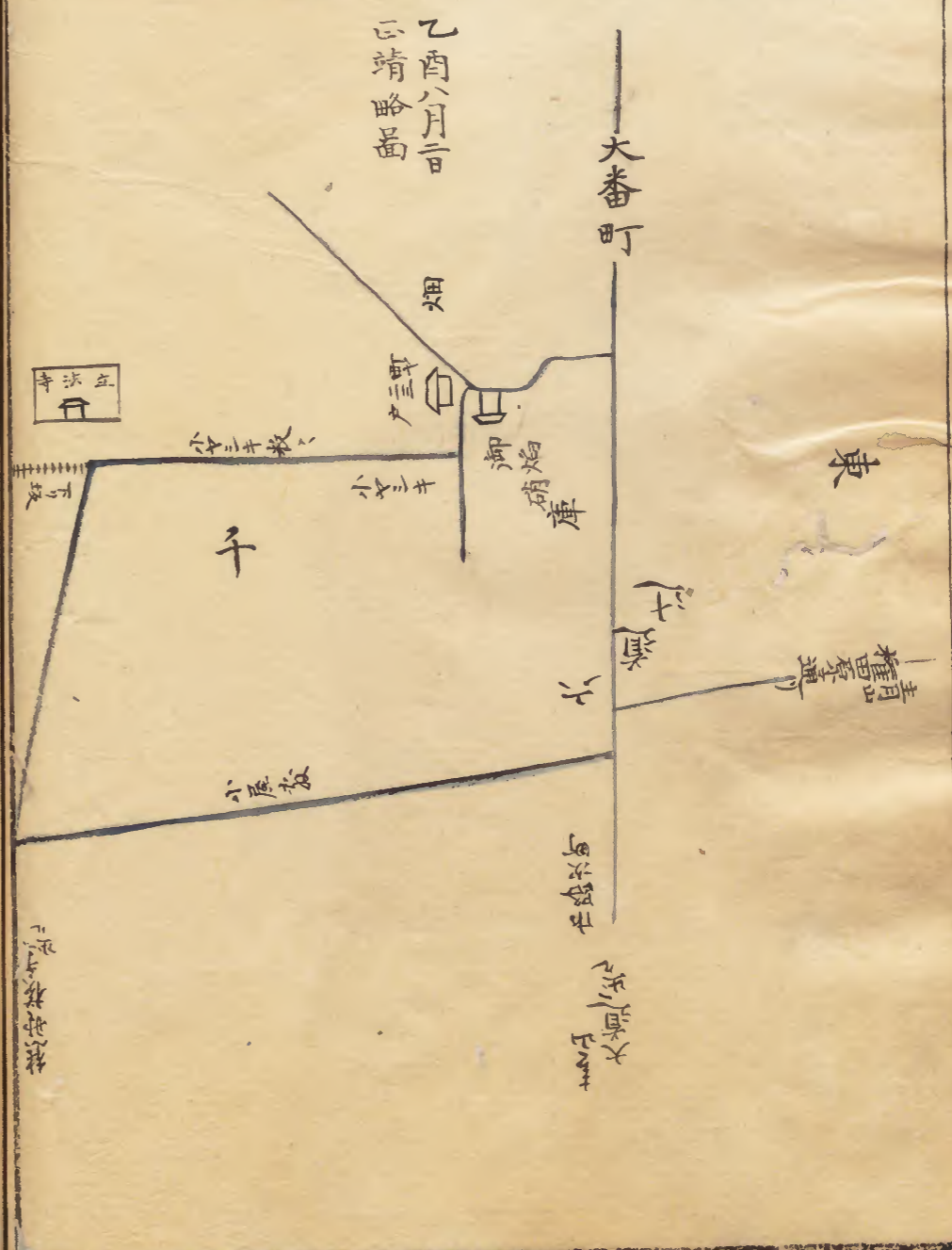














子駟り谷の水のつまじしをす

林葉落葉り認る蟲鳴る輕き香け香け  
悵た汝の有情あり馬の駟り枯る其の嘶き未だ  
脫れ檐の間の齧り筋の是れ伏す琴の





大宮八幡宮大門並木

鞍掛松

直木先伐

甘水先竭

十莊子山木篇



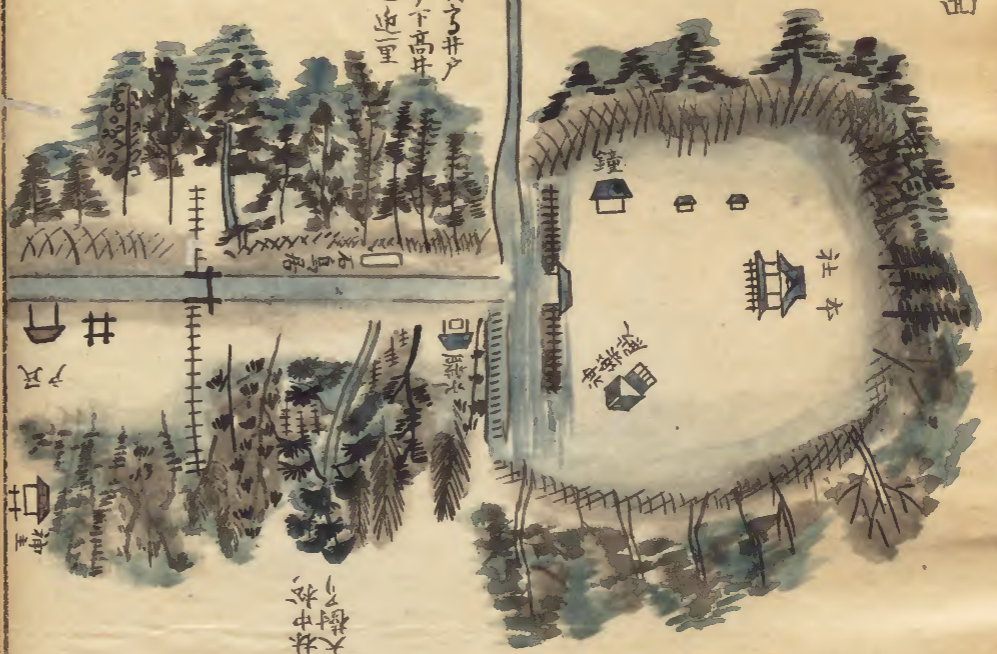


大宮八幡社畧面

南

和泉村(出)以村(子)井ア  
街道(本)通(リ)下高井  
戸ノサ(子)前也(近)二里  
程アリト云

下高井(入)行道

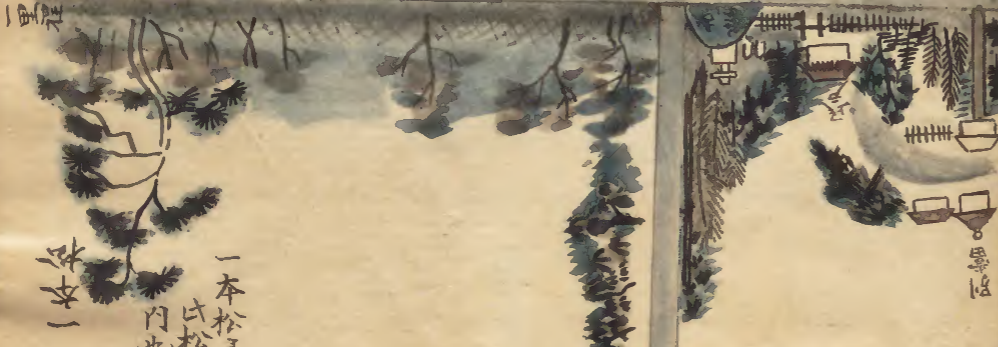


一、道(本)同(三)里(程)出  
二、村(子)井(入)行道(本)通(リ)下高井  
三、戸ノサ(子)前也(近)二里(程)アリト云

八幡宮(山)中ニ葉青キ草ニ  
キ草有物産(家)鹿蹄草  
ト云モノト云及ニ至テ小花ヲ  
閑ク移ヒウニ枯ヤスシ  
壬辰考掘取来ル

松樹藪

東



一本松(リ)社(至)七(九)下斗  
以松(リ)八幡宮(大)門(ノ)  
内也ト云ミルニ強(ク)云

道(本)同(三)里(程)出

壬辰考掘取来ル

此(以)秋(高)井(入)行道  
アリ



































皇朝通志  
卷之四  
禮典

內閣  
文庫



庫 文 閣 内			
三	二	三	和
七	〇	〇	書
架	冊	號	類